

Y18b 「みたか太陽系ウォーク」5年間の発展とその評価

縣秀彦(国立天文台), 大朝摂子(三鷹市), 唐崎健嗣(三鷹ネットワーク大), 半田利弘(鹿児島大)ほかみたか太陽系ウォーク実行委員会一同

三鷹市では2009年世界天文年を契機に、NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構が中心となって「みたか太陽系ウォーク」スタンプラリーを毎年秋にTISF参加イベントとして一か月程度、実施してきた。この期間、JR中央線三鷹駅に直径約1mのミニ太陽を表示し、三鷹市全体を13億分の1にスケールダウンしたミニ太陽系に見立て、街ぐるみでスタンプラリーを行っている。

5回目となる今年度は、2013年9月21日-10月27日に実施され、市内132店舗、国立天文台や市役所などを含む63施設も含め合計195箇所に常設でスタンプが置かれた。さらに、「みたか・星と宇宙の日」等のイベント日のみに市内に設置された「彗星スタンプ」10箇所を含め総スタンプ数は205個であった。スタンプ台紙マップの配布数は約1万4千枚、景品交換者数は2,104名、総スタンプ数は170,480個。平均スタンプ数は81個で、すべてを回った参加者が35名もあり、太陽系の旅を体験しながらの商工振興や観光促進、さらには親子で街を楽しみ、街の魅力を再発見する機会となっている。また、この間、サイエンスカフェも市内で開催されている。

今年度の大きな進展は、太陽系ウォークにちなんだグッズの開発と販売が本格的に行われたことで、土星のクリームパン、海王星茶、隕石クッキー、太陽系ラーメン、太陽系クリアフォルダーなど全12品目が参加店舗で販売された。日本各地においてもこのように市民参加の地域密着型のサイエンスコミュニケーション・イベントが、自治体と研究機関・大学、さらには商工会や観光協会等の協力で実施されていくことが、地域の活性化や産業育成、さらには科学リテラシー構築の上で重要であると考えられる。